

# JEIC NEWS

Japan EMF Information Center News

2022年8月発行

No.

64

Index

●  
P2

巻頭言

新任のご挨拶

●  
P3～7

EMFトレンド情報

子供や青少年の携帯電話使用は脳腫瘍を招くのか？

●  
P8～9

JEICレポート

ドイツ連邦放射線防護局 (BfS) に新設された  
電磁界コンピテンスセンター (KEMF) を訪問しました。

●  
P10～11

コラム

郵便切手に見る電気の世界



電磁界情報センター

# 新任のご挨拶

管理・受託グループ 川岸 裕一

7月1日に管理・受託グループに着任いたしました川岸と申します。

2023年NHK大河ドラマで主人公となるため、最近メディアで取り上げられている機会が多い徳川家康の生誕の地(愛知県三河国)から、江戸幕府が開かれた地へ単身赴任で勤務することになりました。東京勤務及び単身赴任は、私にとって全くの初めての経験で不安を抱えていましたが、職場の和気あいあいとした雰囲気には少しは安堵感を覚えている所です。また、妻と低学年2人の子供と離ればなれの生活になり家族共々寂しさを感じていますが、日々LINEによる連絡や週末はオンラインツアーならぬスマホを活用してビデオ通話による観光名所を案内する等、着任前と違った家族との新たなコミュニケーションをとり、家族と一緒に東京生活をエンジョイしています。

私は、これまで25年余りの会社生活では、主に送電線の保守・設備維持業務に携わっていました。自然災害(雷・台風など)や鳥獣接触による電気故障発生時は、早期に故障点を発見し、設備復旧をするといった良質なエネルギーを安定的にお客さまにお届けするという変わらぬ使命を全うしていました。

さて、電磁界情報センターでは、電磁界の健康影響に関して不安を抱く方などから日々多数のお問い合わせを頂いています。お問い合わせ件数は、2021年度が738件(平均約62件/月)に対し、今年度4～6月で212件(平均約71件/月)と増加傾向にあります。また、目に見えない電磁波に対し、具体的な数値を知りたいというご要望のお客さまに対し、低周波磁界測定器の無料貸出サービスを行っておりますが、こちらも2021年度183件(平均約15件/月)に対し、2022年3月に開始したWEB申込受付の効果もあって、今年度4～6月で76件(平均約25件/月)とこちらも増加傾向にあり、関心の高さが伺えます。

私は、これまでの会社生活にて良質なエネルギー

を安定的にお届けするという変わらぬ使命を全うする上で大事にしてきた事は、「お客さま目線に立って行動する」ということです。お客さまへは、安心・安全・安価なエネルギーをお届けする事を常に念頭に置き、お客さまの期待に応えられるよう微力ではありますが精一杯に業務を遂行して参りました。

これは、現在の業務においても同様な事が言えるのではないかと考えております。電磁波に対して自分自身への健康影響や家族(特にお子さま)への健康影響をご心配されている方が、多数いらっしゃいます。そのような不安を抱いている方に対し、不安を払拭できるようにしっかりと耳を傾け、確かな情報をわかりやすく丁寧に説明することが、今私に新たに課せられた使命だと感じております。

この使命を全うするために、私自身の電磁界に対する専門知識の向上はもちろんのこと、国内外の最新の情報をいち早く収集・分析し広く正確にわかりやすく発信していくことも大切であると考え業務に取り組んでいきたいと思っております。

そして、電磁波に不安を抱いている方が、「電磁界情報センターに問い合わせして、不安が解消して安心して生活できるようになった。」「電磁界情報センターに問い合わせしてよかった。」などの笑顔あふれる生活の一助になれるよう努力していきたいと思っております。

電磁界情報センターの理念・目的は、「中立な立場から、電磁界に関する科学的な情報をわかりやすく提供するとともに「リスクコミュニケーション」の実践を通じて、電磁界の健康影響に関する利害関係者のリスク認知のギャップを縮小する」ことです。この理念・目的の達成に向け、「専門性」「中立性・透明性」「わかりやすさ」を重点に置き活動を確実に展開していきたいと思っております。

今後とも電磁界情報センターの活動に対し、ご理解・ご支援の程よろしくお願い致します。

# 子供や青少年の携帯電話使用は 脳腫瘍を招くのか？

大久保 千代次

携帯電話が世の中に普及し始めた1990年代の電話料金は大変高額でしたので、子供達が気軽に通話できる状況では有りませんでした。その後は相対的安価となって子供達の間にも急速に普及してきました。携帯電話は耳に当てて使うので、そのアンテナも側頭部に近くなります。一般論ですが、小児は成人に比べて様々な外的要因への感受性が高いことは良く知られていますので、電波にも感受性が高い可能性は否定できません。したがって様々な手法で子供の電波ばく露影響についての研究が行われて来ました。

## スチュアート報告

最も関心を集めたのは2000年に英国のNRPB（放射線防護局、現在は公衆衛生庁(PHE: Public Health England))から出版されたIEGMP報告書(携帯電話と健康(スチュアート報告)報告書)<sup>1)</sup>です。その中では、健康問題の総括として、国際的ガイドライン値を下回るばく露でも生物的な影響は起こりうることを認めたものの、証拠のバランスから、国際的ガイドラインを下回るばく露では健康に悪影響を与えることは示唆されないと結論付けました。しかしながら、スチュアート報告は、多くの研究が、通常遭遇する環境レベルでの電波(無線周波電磁界)にばく露されても、短期的には有害な影響は無さそうであるものの、研究の中には携帯電話を長年使用すると悪影響が起きる可能性があることを示唆しているものもあり、子供は大人よりさまざまな要因に感受性が高く、大人に比べて今後長期にわたって携帯電話の使用が予想されることから、青少年の携帯電話使用については用心のための措置(Precautional Approach)を提唱しました。

その当時は世界保健機関(WHO)が行っていた国際電磁界プロジェクトの一環として、携帯電話使用

と頭部・頸部のがん発症に関する症例対照研究(インターフォン研究)が既に始まっていましたが、その研究対象には青少年は含まれていませんでした。

この問題に関して、2004年に開催されたWHOの小児と電磁界に関するシンポジウムでは、青少年に関する研究が少ないので低レベルの電磁波ばく露の長期的な健康影響については全体として現時点では答えようがないと結論付けました。国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)は、低レベルの電磁波ばく露の長期的な健康影響が認識されていない状態では、科学的根拠のある基準を作ることは不可能であるとの立場を示しました。WHOは2006年に更新した研究課題として、無線周波電磁界(電波)の子供への潜在的影響に焦点を絞ることを決定し、疫学研究の優先的課題として「携帯電話の使用に関連する子供の脳腫瘍リスクについての大規模な多国間症例対照研究」<sup>2)</sup>を指定しました。

## CEFALO研究

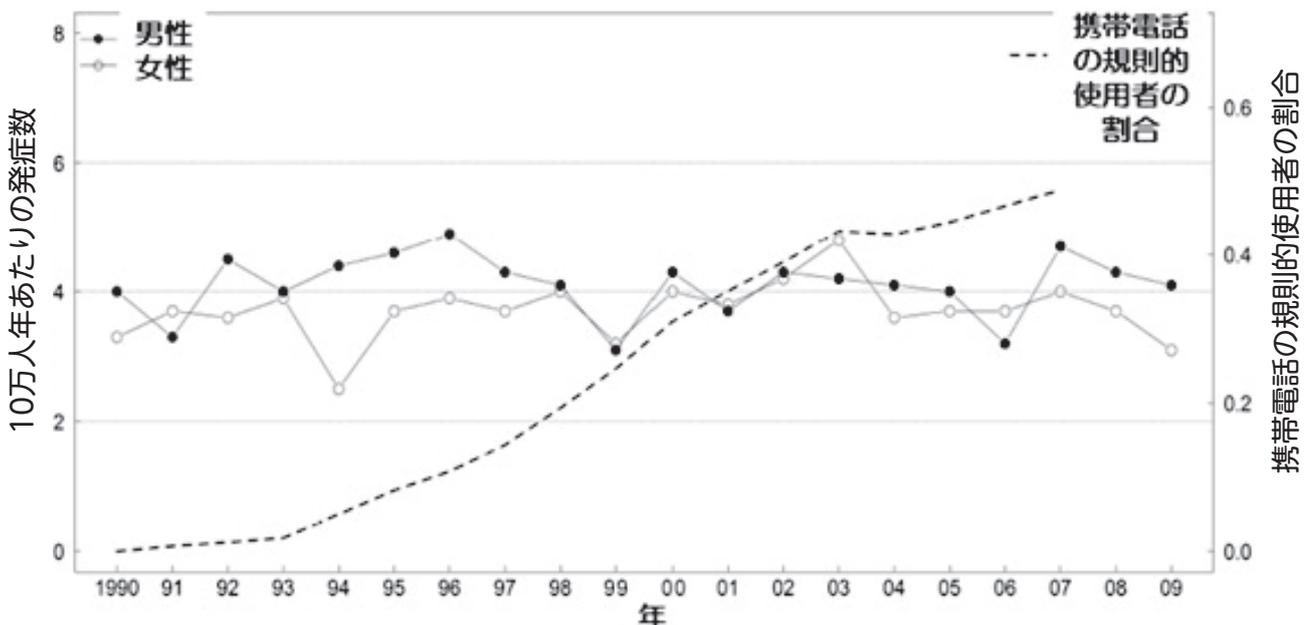
2011年に発表されたCEFALOという子供の携帯電話と脳腫瘍に焦点を当てた多国間の症例対照研究<sup>3)</sup>を紹介します。

CEFALOは、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、スイスが世界で初めて実施したマルチ研究センター方式の症例対照研究であり、2004年から2008年の間に脳腫瘍と診断された7-19歳の子供および若年者を全て含んでいます。脳腫瘍症例群352人(参加率83%)と対照群646人(参加率71%)およびその両親に個人別にインタビューして、携帯電話の使用状況について聞き取り調査を行いました。対照群の各対象者は住民登録から無作為抽出された上で、脳腫瘍症例群と年齢、性別、地理的区域を調整しています。携帯電話使用について質問し、利用できる場合は携帯電話事業者の記録を分析に含めました。そして脳腫瘍のリスクの相対危険度(オッズ比、OR)とその95%信頼区間を計算しました。その結果、携帯電話の規則的使用者が非使用者に比べて、脳腫瘍と診断されることが多いという統計的な差は示されませんでした(相対危険度 = 1.36 ; 95%信頼区間= 0.92-2.02)。携帯電話を少なくとも5年前に使用開始した子供のリスクは、定期的に使用したことがない子供に比べて高くもあ

りませんでした(相対危険度 = 1.26 ; 95%信頼区間= 0.70-2.28)。相対危険度は1を上回っていますが、95%信頼区間の下限値が1を下回っていますので、統計学では有意な上昇とは取り扱いません。最も高いばく露量を受ける脳の部位に着目しても、その脳部位の脳腫瘍のリスク上昇は観察されませんでした。以上の事から、携帯電話の使用量の観点からも、脳腫瘍の部位から見て携帯電話の電波ばく露と脳腫瘍発症反応関係は見られなかったため、携帯電話使用が脳腫瘍を招くという因果関係は否定された内容となっています(図1)。なお、著者らは携帯電話が小さなリスク上昇をもたらす可能性を排除することはできないので、今後も客観的なばく露データを用いた研究が重要であると指摘しています。

## MOBI-Kids研究

スチュアート報告から約20年、CEFALO報告から約10年後の2021年12月末に、世界的に注目されていたMOBI-Kids研究の結果が発表されました<sup>4)</sup>。



携帯電話の規則的使用者：少なくとも6カ月に、少なくとも週1回通話。  
5-19歳の規則的使用者の割合推定：CEFALO研究の対照におけるデータを携帯電話契約者データと結合して推定した。

図1 脳腫瘍および中枢神経系腫瘍の標準化発症率 (5-19歳：2012年1月9日現在の北欧がん登録)

この研究は、小児および思春期層の携帯電話使用と脳腫瘍に関する大規模な14か国が参加した症例対照研究です。携帯電話やコードレス電話などのワイヤレス電話を使用する際に発生する電波と超低周波電磁界のばく露が若年者における脳腫瘍のリスクを高めるかどうかを調べるため、日本を含め、オーストラリア、オーストリア、カナダ、フランス、ドイツ、ギリシャ、インド、イスラエル、イタリア、韓国、オランダ、ニュージーランド、スペインが同じ調査方法で参加しました。2010年から2015年の期間に、10歳から24歳の脳腫瘍患者(症例群) 899人と虫垂炎で手術を受けた、診断時期、研究地域、年齢で症例を調整した対照群1910人を採用しました。参加者と両親からは、携帯電話の使用履歴につ

いて詳細情報を回答して貰い、報告された通話回数と通話時間を、携帯電話事業者から取得した記録と比較すると共に、参加者には特別なアプリケーションを自分の携帯電話にインストールするように求め、4週間にわたって携帯電話の使用を記録して調査も行いました。

研究に参加したのは症例群で72%、対照群で54%です。症例群と対照群の平均年齢はそれぞれ16.5歳および16.6歳で、57%が男性でした。大多数の参加者は携帯電話使用者で、10年以上の長期間使用者の割合が全体で22%、20-24歳のグループでは51%を占めていました。

大半の腫瘍は神経上皮型(671人)で、主に神経膠腫でした。対照群に比較したオッズ比(OR)は、

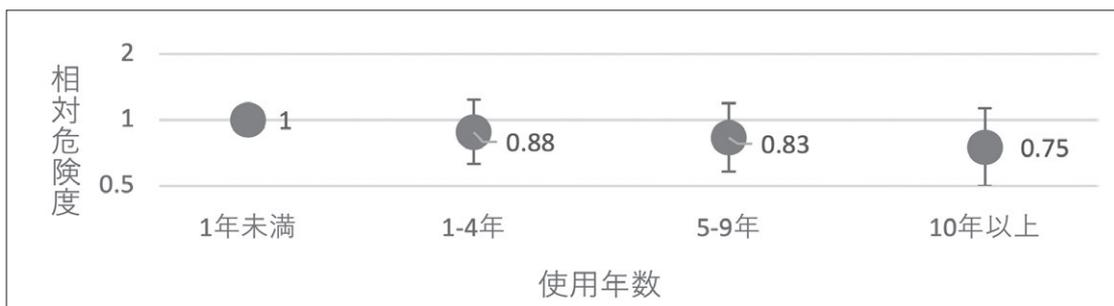


図2 携帯電話使用年数

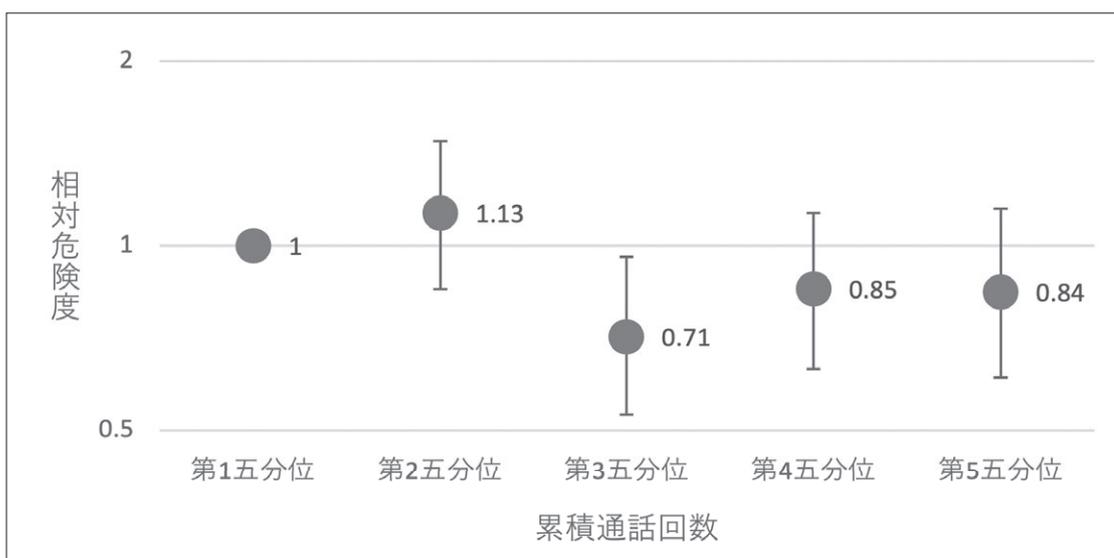


図3 累積通話回数(五分位数表示<sup>※1</sup>)

※1:五分位数表示とは、調査した人の累積通話回数(累積通話時間)の低い方から順番に並べ、それらを上から5等分して5つのグループを作った場合の各グループ表示のことで、累積通話回数(累積通話時間)の低い方から順次第一分位、第二分位、第三分位、第四分位、第五分位としている。

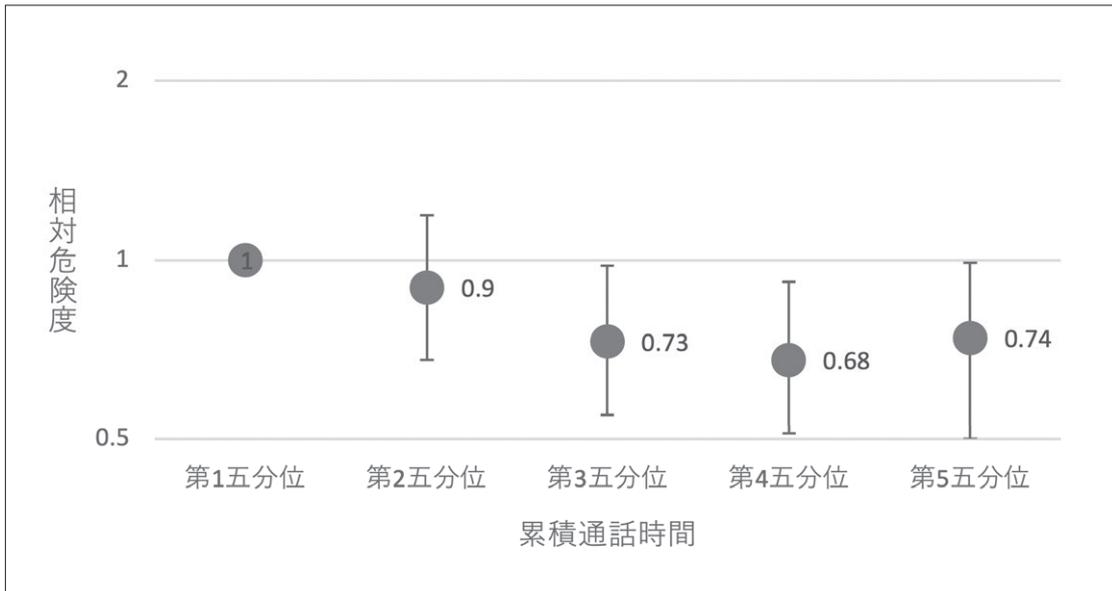


図4 累積通話時間(五分位数表示)

特に15-19歳の年齢グループで、携帯電話の使用開始からの期間(図2)、累積通話件数の増加(図3)および累積通話時間の増加(図4)に伴い低下していました。全体的なデータは、携帯電話の使用が増えると脳腫瘍のリスクが低下する可能性があることを示唆していますが、とは言え、携帯電話の電波のばく露による予防効果がある可能性は低いと思います。

なお、携帯電話からは電波だけでなく、超低周波磁界も発生していますが、この事に関する論文が別途同じMOBI-Kids研究グループから研究報告<sup>5)</sup>が2022年4月に発表されていますので、ご関心のある方はこれをご覧ください。

## 脳腫瘍罹患率の経年変化

これまで紹介したのは、子供の携帯電話使用と脳腫瘍についての症例対照研究ですが、世界各国で国レベルの脳腫瘍罹患率の経年変化を調査した報告が行われています。その中で、米国の神経膠腫の罹患率の経年変化を図5に示します。

この15年間の罹患率変化からは、0歳から14歳、15歳から39歳の年齢層で神経膠腫の増加は観察さ

れていません。他の国で行った調査でも同様の傾向が伺えます。

## まとめ

2000年にスチュアート報告が出されて子供の携帯電話使用に関する健康影響、特に脳腫瘍との関わりに注目され、世界各国でこの可能性を検討して来ました。今回紹介した2件の大規模な症例対照研究の結果や国レベルの脳腫瘍罹患率変化を観察する限り、携帯電話使用が脳腫瘍を招く大きな因子とは考えられません。現在WHOは、2022年末に電波の健康リスク評価の取り纏めを行う予定ですので、その評価結果を注視して行きたいと思います。

## 参考文献)

- 1) Independent Expert Group on Mobile Phones. Sir William Stewart (Chairman), "Mobile Phones and Health", A report from the Independent Expert Group on Mobile Phones, Chilton, IEGMP Secretariat (May 2000) [https://webarchive.nationalarchives.gov.uk/https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/214222/IEGMP\\_Report\\_Mobile\\_Phone\\_and\\_Health.pdf](https://webarchive.nationalarchives.gov.uk/https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/214222/IEGMP_Report_Mobile_Phone_and_Health.pdf)

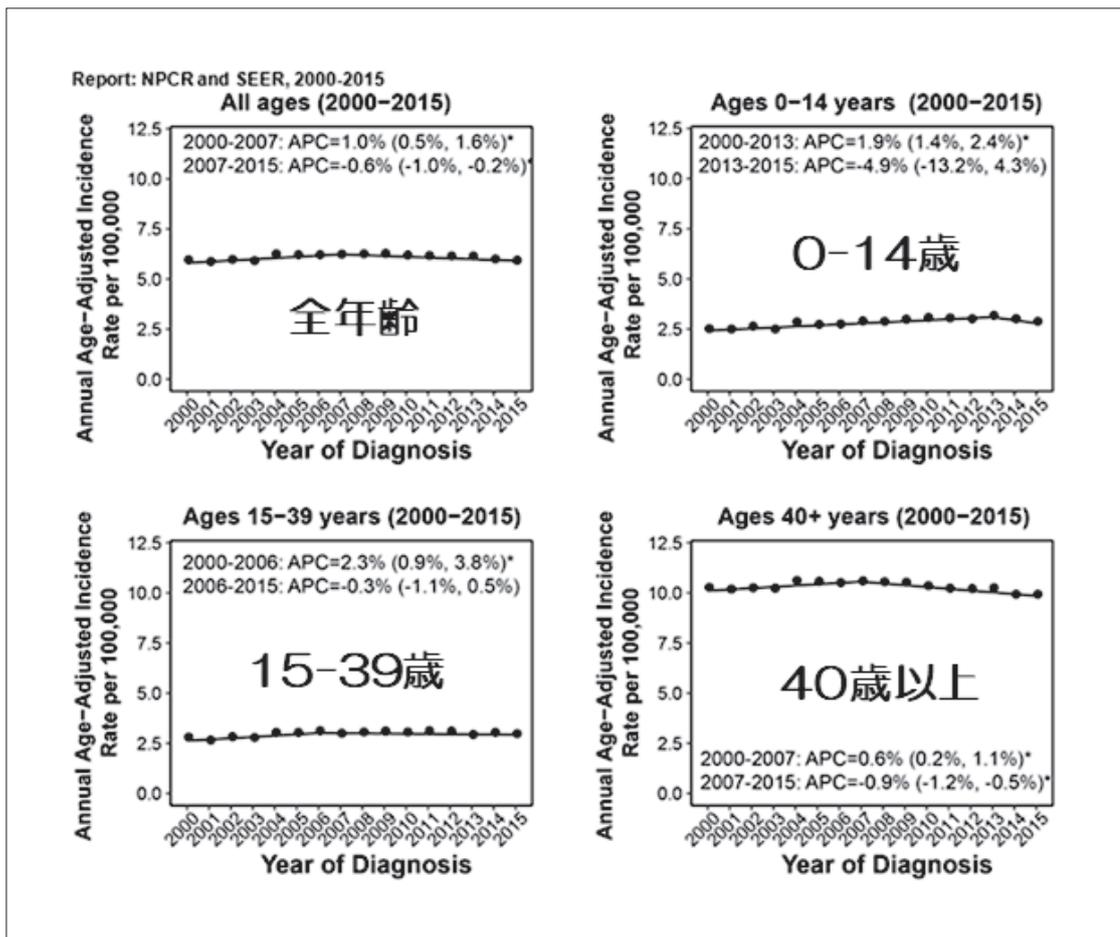


図5 米国の神経膠腫の罹患率変化(2000年-2015年)  
 CBTRUS Statistical report, Ostrom et al. 2018  
 縦軸は年間10万人当たりの年齢調整罹患率、横軸は診断年

[gov.uk/ukgwa/20100910162959/http://www.iegmp.org.uk/report/text.htm](http://gov.uk/ukgwa/20100910162959/http://www.iegmp.org.uk/report/text.htm)

- 2) 2006 WHO Research Agenda for Radio Frequency Fields <https://www.jeic-emf.jp/assets/files/pdf/faq/2006+RF+research+agenda.pdf>
- 3) Aydin D, et al., Mobile Phone Use and Brain Tumors in Children and Adolescents: A Multicenter Case-Control Study. J Natl Cancer Inst Aug (2011) 17:103(16):1264-76. doi: 10.1093/jnci/djr244.
- 4) Castaño-Vinyals G, et al., Wireless phone

- use in childhood and adolescence and neuroepithelial brain tumours: Results from the international MOBI-Kids study. Environ Int 2022; 160: 107069. doi: 10.1016/j.envint.2021.107069. Epub 2021 Dec 30.
- 5) Calderón C, et al., Estimation of RF and ELF dose by anatomical location in the brain from wireless phones in the MOBI-Kids study. Environ Int 2022; 163: 107189. doi: 10.1016/j.envint.2022.107189. Epub 2022 Apr 18.

# ドイツ連邦放射線防護局(BfS)に新設された 電磁界コンピテンスセンター(KEMF)を 訪問しました。

佐々木 大輝

2022年5月27日にドイツ連邦放射線防護局(BfS)の中の組織として2020年にブランデンブルク州コトブス市に発足した電磁界コンピテンスセンター(KEMF)を訪問し、それぞれの組織の活動内容の紹介ならびに今後の活動について意見交換を行いましたので、その概要についてご紹介します。

## KEMFについて

KEMFは、2020年2月5日設立された、主に電磁界に関する研究・評価を行うミュンヘンと、電磁界に関する情報提供・リスクコミュニケーション・ばく露測定を行うコトブスの2拠点で活動するドイツ連邦放射線防護局(BfS)が運営する組織です。KEMFの職員の数にはミュンヘンとコトブスを合わせて29名であり、我々電磁界情報センターの職員数(6名)を上回る組織となっています。

## KEMFの活動状況について

ドイツ国内では、電磁界のばく露に批判的な抗議活動や誤情報・偽情報の発信によって国民の電磁界(特に静電界、低周波電磁界、高周波電磁界)による健康影響の可能性についての関心が高まっています。KEMFでは電磁界のリスク認知とリスクコミュニケーションに関する研究と並行し、情報提供活動として一般市民向けの情報提供を目的としたオンラインイベントの開催、講師の派遣などに日々対応しているとのことでした。



KEMFの外観

講師派遣の依頼件数は、2021年は55件（高周波電磁界47件、低周波電磁界8件）、2022年から訪問時点（5月27日時点）までの間に51件（高周波電磁界40件、低周波電磁界11件）の依頼です。主な派遣依頼理由としては、知識啓発を目的とした学校や自治体からの依頼や、携帯電話基地局建設に際して電磁界の健康影響について議論を盛り上げて設備の建設を阻止しようと考えている市民の反対運動が活発な地域からの依頼など様々です。20～30分の電磁界に関する説明後に1～2時間の相互討論が一般的な講義の流れとのことでした。

## 訪問を通して

訪問時には電磁界情報センター（JEIC）の活動内容についても紹介を行いました。特に電磁界情報センターが行っている磁界測定器の貸出サービスの運用方法や妊婦を対象に作成したパンフレットについて、KEMF職員の関心が非常に高く、電磁界情報センターが発足して約14年で培ったノウハウについても共有を行いました。また、KEMFから日本とドイツの共同調査についての提案があり、訪問後の約1か月後に名古屋で開催された国際会議「BioEM2022」では、電磁界のリスクコミュニケーションをテーマとしたワークショップを日本、ドイツの他に韓国も招待し、3か国で今後の共同体制について討議し、その一歩を踏み出しました。

今回の訪問では、電磁界情報センターが行ってきたリスクコミュニケーション活動が世界的にも非常に注目されていることを改めて認識することができました。今後は各国の電磁界のリスクコミュニケーション組織との有益な協力関係を構築し、更なる展開を行うきっかけとなる事を期待します。



KEMFの情報提供活動の様子



KEMF共同責任者と大久保所長



意見交換の様子

# コラム

## 郵便切手に見る電気の世界

三浦 正悦

私はJEIC NEWSの創刊号からの読者の一人です。これまでは、ニュースの記事とこのコラムを楽しんできましたが、まさか、私にこのコラムの原稿を・・・という話が来るとは予想もしていませんでした。電磁波の生体影響に関することは書く能力はないし、何を書こうか・・・何でも良いと言われて、考え込みました。

幸い、私は電気に関する郵便切手を50年以上にわたって集めてきていますので、電磁波で話題になるようなガウス、テスラ、マルコニーといった人物を描く切手、発電所、送電線、家庭電器、パソコン、ベルの発明した電話から携帯電話まで、などなどを描く切手を紹介することにします。

世界各国で発行された切手の種類は何種類あるか？誰も正確に計数した人はいません、200万種類以上ではないかと、思われます。世界の切手をリストしたカタログ(アメリカのスコット切手カタログ、ドイツのミッヘル切手カタログ等)も発行されていますが、それでも完ぺきではありません。この多種類の中から、時間と手間をかけて探し出せば、そうした切手は見つかります。堅い電磁波の生体影響に関するJEIC NEWSの最後に、このコラムで郵便切手には興味はない方が多いかもしれませんが、ちょっと息抜きとして読んでいただければ、幸いです。

電気に関連する切手の紹介に先駆けて、なんといっても一般的に世界最初の郵便切手とされるイギリスの切手を紹介します。

1840年にイギリスでは大きな郵便制度の改革が行われました。あくまでも「郵便制度の改革」です。すなわち、それ以前にも郵便制度はあったのです。この改革はローランド・ヒル(Rowland Hill, 1795年- 1879)によって推進されました。ローランド・ヒルによって郵便制度そのものが創設されたわけではありません。この制度改革の中には均一料金で、郵便料金前納制度が含まれていました。前納した証拠として郵便切手が採用されました。

近代郵便が始まる前は、郵便料金は受取人が支払うことになっていました。あるとき、遠くに働きに行っている父親から留守宅の子供に宛てた手紙を、貧乏なために受け取ることができないでいる場面にヒルは遭遇し、そこから廉価な近代郵便制度の必要性を感じたという説話が残っています。

イギリスが世界最初の郵便切手を発行したのは1840年で、図1に示します。この切手は額面が1ペニーで、黒で印刷されていたので「ペニーブラック」という愛称がついています。よく見ると普段見かける切手にある様な周囲のギザギザ(これを「目打ち」という)がありません。この当時は切手をはさみで切り離していたのです。



図1 世界最初の郵便切手

図2はペニーブラッ



図2 1840年10月に使用された郵便

ク切手を貼った手紙の例です。当時は紙が貴重品であったので、便せんに書いてから別の封筒などにいれて発送はしません。書いた手紙を折りたたんで、表側に宛先などを記入して発送します。

古い切手を貼った手紙を眺めるだけではおもしろくありませんので、この郵便の例にして、当時の郵便の送達速度を推し量ってみます。この1840年に送達されたある手紙の場合は、スコットランドのグラスゴーに近いグリーンノック (Greenock) の郵便局で10月26日に受付けられ、現在はエジンバラの町の一部になっているライス (Leith) に10月27日に到着しています。到着時刻までは判りません。この2点間は約100kmの直線距離で、翌日には配達されています。グリーンノックからグラスゴーへ、そしてエジンバラへ、さらにライスへという送達ルートで、10時間から12時間かけて郵便馬車で運搬されたと推定されます。

ペニーブラックは、黒色で印刷されていたために、押印した郵便消印がよく見えません。これが不人気で、翌年には同じ図案ですが、刷色を赤にした切手が発行されました。「ペニーレッド」と呼ばれます。

図3はペニーレッドを貼った手紙です。図4に示す手紙の内容を見ると、書いたのは8月28日、郵便局の引き受けは赤いスタンプ(切手の収集家

は証示印という、引き受け郵便局名や日付を示す)を見ると「SUN AU 31 1845」とあり、8月31日に郵便局に持ち込まれたとわかります。当時も日曜日でも郵便局は開いていたのです。

この手紙も図2の手紙と同じで、大きな紙に手紙を書いて、折りたたんだもの

なので、こうして切手を貼った郵便物を収集すると、当時の世相が判ります。ある意味では1次資料です。この手紙は「City of Toronto and Lake Huron Railway, West Canada」という鉄道会社のイギリス本社から、「株券の購入を認める、手付金を支払うよう」指示した内容です。

当時は鉄道建設が進みだした時代で、同時に、郵便の近代化も始まった時代です。鉄道が開通した当初は、旅行客等乗客の利用者は少なく、経営を安定させる収入源にはなりません。貨物輸送にしても、馬車・駅馬車との競争です。郵便物は定時運送が重要で、それまでの馬車運送は不確実でした。鉄道は基本的に定時輸送が可能です。この点に着目した郵政と、固定した需要が欲しかった鉄道会社の協調が始まりました。

このように、切手を単に集めてストックブックに入れておくだけでなく、色々調べていくと、面白いことが判ります。博学への道です。



図3 1845年ペニーレッドを貼った手紙

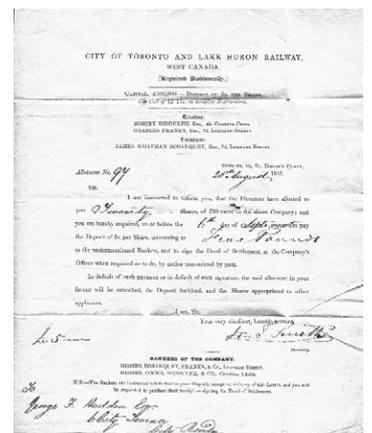


図4 1845年 手紙の内容

## 電磁界情報センター賛助会入会のご案内

当センターは、センターの活動にご理解を頂ける皆さまの賛助会費によって支えられています。  
賛助会員には3つの種別があります。

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| ● 法人特別賛助会員 (1号会員) | 年会費 100万円 / 口 |
| ● 法人賛助会員 (2号会員)   | 年会費 1万円 / 口   |
| ● 個人賛助会員 (3号会員)   | 年会費 3千円 / 口   |

入会をご希望される方は、センターホームページへアクセス、又は電話 / FAXにてお問い合わせ下さい。

電磁界情報センターホームページURL <https://www.jeic-emf.jp/>

TEL : 03-5444-2631 / FAX : 03-5444-2632

### （ 「JEIC NEWS」 に対してご意見・感想をお寄せ下さい ）

「JEIC NEWS」は、センターの活動報告、国内外の最新情報、電磁界（電磁波）に関する豆知識などの記事を4カ月に1回程度で発行しています。読者の皆さまからの本誌に対するご意見・感想をお寄せ下さい。記事としての掲載など誌面づくりに活用させていただきます。

#### 例

- 海外の専門家の記事を紹介してほしい。
- 電磁界（電磁波）に関する技術解説記事が読みたい。
- 電磁界情報センターのセミナーに参加して良かった。（もっと改善してほしい）
- 電磁界（電磁波）の説明や表現をもう少し分かりやすくしてほしい etc.

※掲載にあたり、読みやすさの観点から表現を変更・修正させて頂くことがあります。  
※個人への誹謗・中傷に当たる表現は削除させていただきます。

ご投稿は、下記に掲載の連絡先（電話、FAX、E-mailのいずれか）までお願いします。  
皆さまの声をお待ちしています。

## 編集後記

電磁界情報センターでは、7月に1名の異動があり、「JEIC NEWS」の編集担当が変更となりました。今号では、新たに着任された川岸特命グループマネージャが巻頭号を担当しました。ちなみに私は電磁界情報センターに着任して4年目になります。これまで、受託業務や各種セミナー運営を担当してきましたが7月からは情報調査グループの一員として、JEIC NEWSの編集や電磁界の調査業務など未経験の業務に関わる機会に恵まれたので精一杯努めさせていただきます。

今後は新体制のもと、より一層電磁界に関する科学的な情報を分かりやすく提供できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

佐々木 大輝

JEIC NEWS No.64 2022 (令和4)年8月30日発行

編集 電磁界情報センター 情報調査グループ

発行人 電磁界情報センター所長 大久保千代次

住所 〒105-0014 東京都港区芝2-9-11 3F

連絡先 TEL : 03-5444-2631 FAX : 03-5444-2632 E-mail : jeic@jeic-emf.jp

URL <https://www.jeic-emf.jp/>